株式情報 （2019年3月31日現在）

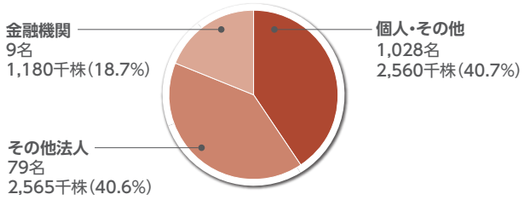
【株式の状況】

発行可能株式の総数	25,224,000株
発行済株式の総数	6,306,000株
株主の総数	1,116名

【株主メモ】

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL　0120―232―711（通話料無料）
公告の方法	電子公告により行います。 ただし、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。

【普通株式所有者別状況】



〈ご注意〉

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。
   株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支いいたします。

より詳細な情報は弊社WEBサイトをご覧ください。

ヤマウ　検索

http://www.yamau.co.jp/

株式会社ヤマウ
福岡市早良区東入部五丁目15番７号

VEGETABLE OIL INK　地球環境を考え、植物油インキを使用しています。

UD FONT　見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

第62期　事業報告書

YAMAU REPORT 2019

2018年4月1日▶2019年3月31日

証券コード：5284

株式会社ヤマウ

株主の皆様へ

株主の皆様には格別のお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。

当期は中期経営計画の初年度という重要な1年でありましたが、おかげさまで当初計画を上回る業績を達成することができました。今期も、中期経営計画の最終年度目標達成に向けてさらに力強く経営にあたっていく決意でございます。

引き続き一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2019年6月

代表取締役社長
小嶺　啓藏

Q 当期の市場環境、決算のポイント等について教えてください。

A 営業利益は前期比 60% 超の増収を達成することができました。

主要市場である九州圏内では、高水準で推移する公共投資を背景に設備投資の増加が見られるなど、景気は緩やかに拡大しております。しかしながら建設市場では、公共投資が中長期的には漸減する方向であることに加え、耐震、老朽化対策などの既存インフラの維持管理や、防災・減災対策へシフトしているなどの楽観できない状況が想定されます。

このような経営環境の下、当社グループでは当期からスタートした「中期経営計画」に基づき、継続的な事業成長を目標に、技術・開発力の向上や、生産性及び収益性の向上を目指して参りました。その結果、当期の主な連結業績は、売上高 240 億 68 百万円（前期比 6.0% 増）、営業利益 8 億 55 百万円（同 61.6% 増）、親会社株主に帰属する当期純利益 5 億 1 百万円（同 9.4% 減）となりました。

Q 当期は中期経営計画の初年度でしたが、どのように分析・評価されますか？

A 中計の順調な滑り出しとして相応の手応えを感じております。

当期は中期経営計画初年度という重要な 1 年として、私自身、特に気を引き締めて経営にあたって参りました。その取り組み成果として、当期連結業績を「中期経営計画最終目標達成率」で見ると、売上高は 96.3%、経常利益は 108.1%となっており、初年度としては順調な滑り出しであると感じております。

これは、当社グループの「インフラ整備にかかわるトータルソリューションで、安心･安全なまちづくりに貢献する」という社会的使命のもと、道路・港湾・河川等のインフラ整備事業や災害復旧工事、防災関連工事に全社員一丸となって取り組んだ成果である捉えております。

また、中期経営計画の基本方針としての「小さくても強い会社」を実現すべく、効率的で利益の出る会社を目指す中としては、利益体質の強化は着実に図られていると相応の手応えを感じております。

中期経営計画の概要

Ⅰ 経営理念

◇ ヤマウフィロソフィ

社 是[ヤマウの目的・存在理由]

わが社は、事業活動を通じて社会に貢献することを使命とし、顧客の満足度を高め、会社の発展と社員の幸福を実現する。

◇ 当社グループの社会的使命 (ソリューションミッション)

インフラ整備にかかわるトータルソリューションサービスで、安心・安全なまちづくりに貢献する。

Ⅱ 基本方針　『小さくても強い会社』を実現する。

当社グループの社会的使命実現のため、2018年度からの3年間は、成長ステージの基盤作りの3年間ととらえ、経営資源の再配分、社員個々の能力向上並びに一致団結して事に当たる強いチームワークにより、生産性や技術力の向上を図り、効率的で利益の出る会社を目指す。

Ⅲ 数値目標

【2021年3月期の目標】

連結目標		個別目標	
売上高	250 億円	売上高	158 億円
経常利益	9 億円		
ROA	2.5 %	経常利益	4.7 億円
ROE	11.5 %		

Ⅳ 株主還元方針

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要政策と位置付け、安定配当の継続を基本方針としております。2021年3月期には、配当性向30%以上を目指します。

Q 次期（2020 年 3 月期）の見通しについてはいかがですか？

A コア事業の進化と周辺事業のソリューション強化に取り組み、利益創出に努めて参ります。

今後におきましては、緩やかな回復が続くことが期待される一方、資材価格の高騰や人手不足、輸送コストの上昇などによる企業業績への影響が懸念されるなど、楽観できない状況で推移するものと予想されます。このような経営環境下において当社グループは、2018 年 4 月から 2021 年 3 月を実行期間とする「中期経営計画」に基づき、技術・開発力の向上、受注力・コスト競争力の追求等によるコア事業の進化を図るとともに、周辺事業によるソリューション強化に取り組み、利益の創出に努めて参ります。

これら諸施策により連結業績につきましては、売上高 232 億円（当期比 3.6% 減）、営業利益 7 億 60 百万円（同 11.1% 減）、親会社株主に帰属する当期純利益 5 億 20 百万円（同 3.8% 増）を見込んでおります。

Q 配当状況など、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A 記念配当を含んでいた前期末と同額の 1 株当たり 11 円の普通配当を実施しました。

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要政策として位置付け、安定配当の継続、また財務体質の強化と今後の事業展開のための内部留保を確保することを基本方針としております。この方針に基づき、当期末では前期末（普通配当 8 円＋設立 60 周年記念配当 3 円）と同額の 1 株当たり 11 円の普通配当を実施させていただきました。なお次期の期末においては、1 株当たり 11 円の配当を予定しております。

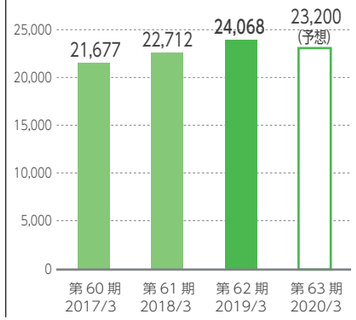
私たちヤマウグループは一丸となり、「小さくても強い会社」としてこれからさらなる高みを目指して参ります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

主要な連結経営指標

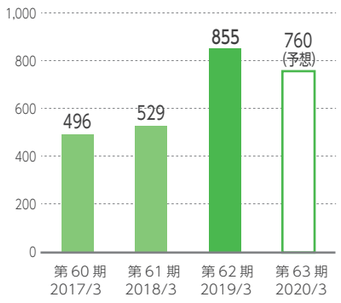
■ 売上高

(単位：百万円)



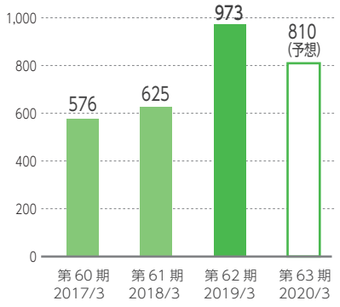
■ 営業利益

(単位：百万円)



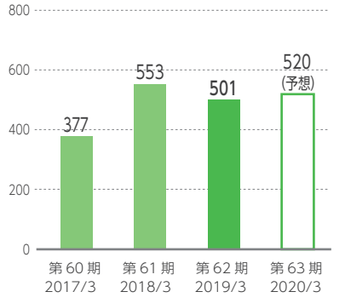
■ 経常利益

(単位：百万円)



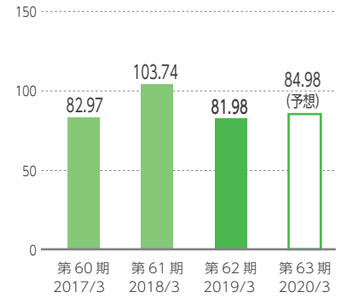
■ 親会社株主に帰属する当期純利益

(単位：百万円)



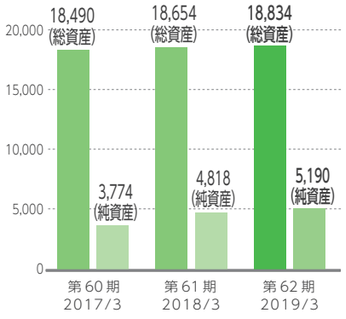
■ 1株当たり当期純利益

(単位：円)



■ 総資産／純資産

(単位：百万円)



連結財務データ

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当連結会計年度 2019年3月31日現在	前連結会計年度 2018年3月31日現在
資産の部		
流動資産	13,326	12,859
固定資産	5,507	5,794
有形固定資産	4,441	4,605
無形固定資産	118	216
投資その他の資産	947	972
資産合計	18,834	18,654
負債の部		
流動負債	11,450	10,926
固定負債	2,193	2,910
負債合計	13,643	13,836
純資産の部		
株主資本	4,873	4,418
資本金	800	800
資本剰余金	755	735
利益剰余金	3,320	2,886
自己株式	△2	△2
その他の包括利益累計額	242	324
その他有価証券評価差額金	128	179
退職給付に係る調整累計額	114	145
非支配株主持分	74	74
純資産合計	5,190	4,818
負債純資産合計	18,834	18,654

連結損益計算書

(単位：百万円)

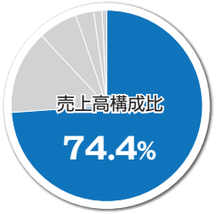
科目	当連結会計年度 2018年4月 1日から 2019年3月31日まで	前連結会計年度 2017年4月 1日から 2018年3月31日まで
売上高	24,068	22,712
売上原価	18,501	17,566
売上総利益	5,567	5,146
販売費及び一般管理費	4,711	4,617
営業利益	855	529
営業外収益	188	171
営業外費用	70	74
経常利益	973	625
特別利益	27	10
特別損失	160	36
税金等調整前当期純利益	840	599
法人税、住民税及び事業税	300	188
法人税等調整額	23	△150
当期純利益	517	560
非支配株主に帰属する当期純利益	15	7
親会社株主に帰属する当期純利益	501	553

連結キャッシュ・フロー計算書

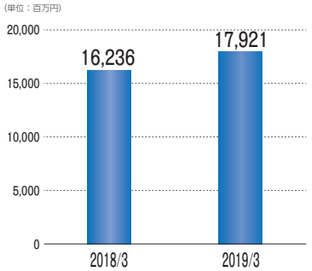
(単位：百万円)

科目	当連結会計年度 2018年4月 1日から 2019年3月31日まで	前連結会計年度 2017年4月 1日から 2018年3月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	1,277	598
投資活動による キャッシュ・フロー	△425	△470
財務活動による キャッシュ・フロー	△798	△378
現金及び現金同等物の 増減額（△は減少）	53	△250
現金及び現金同等物の 期首残高	2,518	2,768
現金及び現金同等物の 期末残高	2,571	2,518

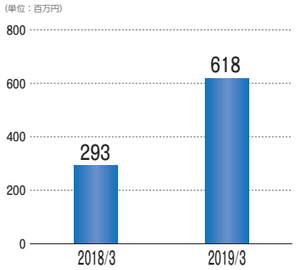
コンクリート製品製造・販売事業



売上高



セグメント利益



コンクリート製品製造・販売事業の売上は、土木製品、景観製品、レジンコンクリート製品の販売によるものであります。

当連結会計年度においては、主要市場である九州圏内の建設市場において、中・長期的には公共投資の縮小により漸減する方向であることに加え、公共投資が耐震、長寿命化、老朽化対策などの既存インフラの維持管理や防災・減災対策へシフトしていくなか、平成 28 年熊本地震や平成 29 年 7 月九州北部豪雨などの復旧・復興工事への対応や、一般管理費を含めたコスト削減に取り組んで参りました。

その結果、当連結会計年度においては、コンクリート製品製造・販売事業の売上高は、179 億 21 百万円（前年同期比 10.4 %増）、セグメント利益（営業利益）は 6 億 18 百万円（前年同期比 110.4%増）となりました。

コンクリート製品のご紹介

■ 土木製品

土木部門では、環境問題への関心の高まりや熟練工不足による省人化問題の解決に向け、「現場打ちのプレキャスト製品化」を提案し施工現場の作業改善や工期短縮に貢献しています。

cv絆

■ 建築関連製品

後付エレベーター昇降路「Fine uni（ファインユニ）」は、既存建物の物理的バリアを解消し、入居者の高齢化が進む共同住宅や、車椅子対応を進める教育施設・歩道橋等への今後の需要が見込まれています。

ファインユニ（後付エレベーター昇降路）

■ 景観製品

多彩な表情を持つヤマウの景観製品は自然環境に広がりと奥行きを与え、開放感やスケール感を損なうことなく美しい景観を演出します。

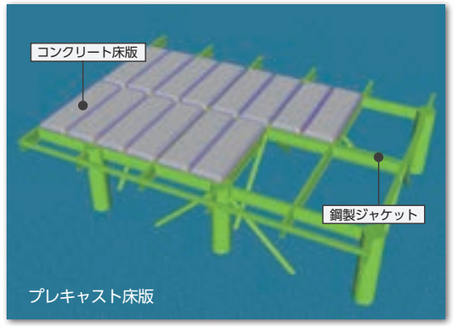
■ レジンコンクリート製品

耐摩耗性、耐薬品性、耐水性などに優れ、美観とともに強度や耐久性の両面が必要とされる環境条件に最適な製品です。

ヤマウのコンクリート製品

プレキャスト床版 ジャケット式桟橋上部工

当社の港湾関連製品であるプレキャスト床版は、従来、現地製作（サイトプレキャスト）により対応していたジャケット式桟橋の上部工コンクリート床版を運搬可能なサイズに分割することで工場製作（プレキャスト）を可能にしました。分割個所はループ筋を有した現場打ち継手で接合し、アングル形残存型枠により生コンを保持します。



プレキャスト床版

工場製作のメリット

■ **品質安定**
工場で徹底管理の下に製造された出来高誤差が少なく安定した高品質を実現

■ **工期短縮**
現地製作と比較して大幅な工期短縮が可能

■ **トータルコスト低減**
共通仮設費や現場管理費を抑えることができ、従来工法と遜色ないトータルコスト削減

■ **建設廃棄物の削減**
現地での製作ヤードが不要で、基礎コンクリートや型枠材等の建設廃棄物の発生を削減

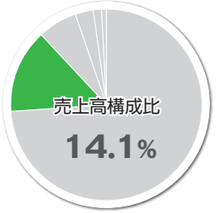
博多港

博多港中央ふ頭岸壁改良工事　国土交通省九州地方整備局　博多港湾・空港整備事務所

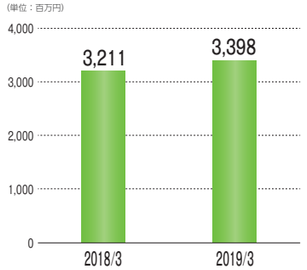
佐伯港

佐伯港女島地区岸壁延長工事　国土交通省九州地方整備局　別府港湾・空港整備事務所

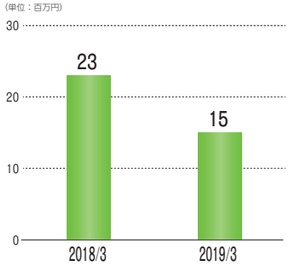
水門・堰の製造及び施工並びに保守事業



売上高



セグメント利益



水門・堰の製造及び施工並びに保守事業の売上は、水門、除塵機、水管橋等鋼構造物の製造、施工並びにそれらの保守によるものであります。

当連結会計年度においては、水門・堰の製造及び施工並びに保守事業の売上高は、33億98百万円（前年同期比5.8％増）となりました。損益面では下半期に工事が集中したことによる外注費等コストの増加により、セグメント利益（営業利益）は15百万円（前年同期比34.3％減）となりました。

ローラーゲート

主な完成工事

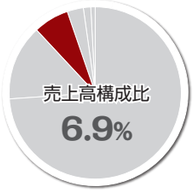
ローラーゲート

向田第一樋門工事
国土交通省九州地方整備局川内川河川事務所

油圧式起伏ゲート

広瀬地区ゲート工事　福岡県筑後農林事務所

地質調査・コンサルタント業務及び土木工事事業



売上高 16億66百万円
（前年同期比22.3％減）

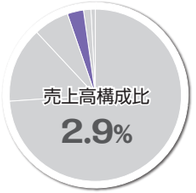
営業利益 71百万円
（前年同期比0.8％減）

地質調査・コンサルタント業務及び土木工事事業の売上は、地質調査及び地すべり対策工事並びに測量・設計業務によるものであります。

当連結会計年度においては、地質調査・コンサルタント業務及び土木工事事業の売上高は16億66百万円（前年同期比22.3％減）、セグメント利益（営業利益）は71百万円（前年同期比0.8％減）となりました。

ノンフレーム工法

コンクリート構造物の点検・調査、補修工事事業



売上高 7億円
（前年同期比6.9％増）

営業利益 64百万円
（前年同期比31.5％減）

コンクリート構造物の点検・調査、補修工事事業の売上は、橋梁、トンネル等コンクリート構造物の点検・調査業務の請負、補修工事・補強設計業務の請負によるものであります。

当連結会計年度においては、コンクリート構造物の点検・調査、補修工事事業の売上高は７億円（前年同期比6.9％増）、セグメント利益（営業利益）は64百万円（前年同期比31.5％減）となりました。

災害復旧 橋梁補修工事（阿蘇長陽大橋）

情報機器の販売及び保守並びに環境関連商品の販売事業

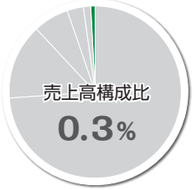
売上高 3億44百万円
（前年同期比14.4％減）

営業利益 12百万円
（前年同期比94.0％増）

情報機器の販売及び保守並びに環境関連商品の販売事業の売上は、主に金融機関向け業務処理支援機器、貨幣処理機及びその周辺機器の販売並びにそれらの保守、ＬＥＤ照明の販売によるものであります。

当連結会計年度においては、情報機器の販売及び保守並びに環境関連商品の販売事業の売上高は３億44百万円（前年同期比14.4％減）、セグメント利益（営業利益）は12百万円（前年同期比94.0％増）となりました。

不動産事業



売上高 78百万円
（前年同期比2.5％増）

営業利益 29百万円
（前年同期比4.6％増）

不動産事業の売上は、主に不動産の賃貸によるものであります。当連結会計年度においては、不動産事業の売上高は78百万円（前年同期比2.5％増）、セグメント利益（営業利益）は29百万円（前年同期比4.6％増）となりました。

なお、当連結会計年度より不動産事業を主要な事業の一つとして位置づけ、従来、営業外収益としておりました不動産賃貸収入を売上高とするとともに、不動産事業として区分しております。

ヤマウネットワーク

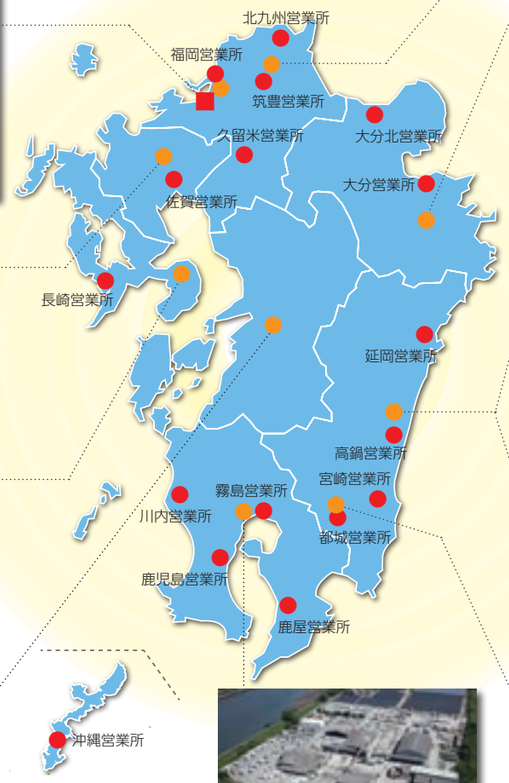
■ 本　　社　福岡
● 営 業 所　福岡、久留米、北九州、筑豊、佐賀、長崎、大分、大分北、宮崎、延岡
　　高鍋、都城、鹿児島、鹿屋、川内、霧島、沖縄、関東事業部
● 工　　場　福岡、北九州、佐賀、大分、川南、REC、高崎、鹿児島、長崎

本社・福岡工場

佐賀工場

長崎工場

熊本工場（協力工場）



北九州工場

大分工場

川南工場

REC工場

高崎工場

鹿児島工場

会社情報（2019年6月27日現在）

【会社概要】

商　　号	株式会社ヤマウ
本　　社	福岡市早良区東入部五丁目15番7号
創　　業	1953年10月
設　　立	1958年(昭和33年)2月
資 本 金	8億円
代 表 者	代表取締役社長　小嶺　啓藏
従 業 員	233名　（2019年3月31日現在）

【会社役員】

代表取締役社長	小嶺　啓藏
取締役会長	権藤　勇夫
取締役副社長	有田　徹也
取締役専務執行役員	伊佐　寿起
社外取締役	吉岡　東
常勤監査役	隈江　芳博
社外監査役	長野　紘一
社外監査役	右田　國博

【関係会社一覧】

㈱ヤマウトラスト	製造業務請負事業、鉄筋加工事業、コンクリート製品用型枠の製造・販売並びに改造・修理
九コン販売㈱	コンクリート製品仕入販売事業
大分フジ㈱	コンクリート製品製造・販売
㈱熊本ヤマウ	コンクリート製品製造・販売
開成工業㈱	水門・堰の製造、施工及び保守
大栄開発㈱	地質調査及び地すべり対策工事並びに測量・設計
メック㈱	コンクリート構造物の点検・調査業務、補修・補強設計業務、補修工事業務、補修・補強材料販売業務
㈱リペアエンジ	一般土木工事並びにコンクリート構造物等の補修・補強工事
光洋システム機器㈱	情報機器の販売及び保守並びに環境関連商品の販売